

■団体紹介■だんたいしょうかい■

演奏団体 邦楽グループ「玉手箱」

国際的な活躍で知られた邦楽奏者高田和子氏が、東京藝術大学出身者の優秀な若手演奏家を集めて従来の邦楽界の枠を超えて、新しい日本の邦楽を世界に、そして日本の若い人たちに広めようと結成されました。かたくるしいイメージのある邦楽に、もっと気軽に親しんでもらいたいと、学校でのワークショップや音楽鑑賞会にも取り組んできました。

●演奏者紹介●えんそうしゃしょうかい●

清野 さおり(山田流箏曲演奏家)
東京藝術大学卒業。NHK邦楽技能者育成会修了。北海道三曲コンクール児童の部第一位。同コンクール新曲の部第一位(知事賞受賞)。NHKオーディション合格。第4回～長谷校校記念～全国邦楽コンクール最優秀賞受賞。新進芸術家国内研修員に選出。NHK-FM・Eテレに出演。千葉県アーティストソムリエ演奏家。

小間 夕起子 (山田流箏曲演奏家)
東京藝術大学卒業。NHK邦楽技能者育成会修了。第10回～長谷校校記念～全国邦楽コンクール優秀賞受賞。山田流箏曲組歌を鳥居名美野師に、清元節三味線を故清元美治郎師に、一中節浄瑠璃を都了中師に師事。NHK-FM放送等出演。小中学校における箏の普及活動にも努める。

山本 啓代(生田流箏曲演奏家)
東京藝術大学卒業。幼少より母に箏曲を師事。藝大卒業後～沢井忠夫に師事。韓国ソウル、ウクライナ、アメリカ(カーネギーホール)などで演奏。日本の作曲家松下功作品に出演。FM東京、NHK「いろはに邦楽」、市川猿之助公演「黒塚」に出演。CD「山本邦山尺八の魅力」録音。平和堂財団奨励賞受賞。

清野 樹盟 (琴古流尺八演奏家)
東京藝術大学卒業。北海道三曲コンクール児童の部第二位。同コンクール尺八の部第一位。
在学中、琴古流尺八を人間国宝山口五郎師に師事。人間国宝山勢松韻師の特別出演によりリサイタル開催。吉幾三、西香かおり公演に尺八奏者として出演。NHK-FM・Eテレに出演。NHK文化センター、産経学園尺八講師。

長須 与佳(薩摩琵琶・琴古流尺八演奏家)
東京藝術大学卒業。第9回～長谷校校記念～全国邦楽コンクール最優秀賞受賞(文部科学大臣奨励賞)。和楽器ユニットRinでavexよりメジャーデビュー。プルボンチーズおかき、HAIR&MAKE-EARTHのCF出演。第19回日本ゴールドディスク大賞『ニュー・アーティスト・オブ・ザ・イヤー』受賞。

制作団体 株式会社アート・メディア・オフィス

令和5年度

学校巡回公演事業

邦楽公演 邦楽グループ「玉手箱」

魅力の和楽器体験「邦楽入門コンサート」

「日本の音を求めて」～古典から現代への伝統～



学校巡回公演事業

小学校・中学校において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)

独立行政法人 日本芸術文化振興会

魅力の和楽器体験「邦楽入門コンサート」

プログラム

1. 六段調 (ろくだんのしらべ) 合奏●箏 三味線 尺八 (三曲合奏)

江戸時代の箏曲の祖、八橋検校の曲です。
箏と三味線と尺八の合奏で三曲合奏曲と呼ばれています。

2. 鹿の遠音 (しかのとおね) 独奏●尺八

ふるくから伝わる尺八本曲の名曲です。
秋の山に鳴き交わす二頭の鹿の様子を描写したものとされています。

3. 祇園精舎 (ぎおんしょうじゃ) 独奏●琵琶

「祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり」の琵琶の弾き語りで有名な「平家物語」の始まりの部分です。盲目の琵琶法師によって語りつがれてきました。

4. 春の海 (はるのうみ) 二重奏●箏 尺八

十七弦の考案者、宮城道雄の作曲です。お正月には必ず流れて来る曲です。

5. 雪ものがたり 合奏●箏 十七弦 尺八 朗読

現代作曲家沢井忠夫の邦楽の新しい曲です。岸田今日子の脚色で朗読がついています。うつくしい日本語と和楽器の響きが調和している音楽物語です。

6. さくら 児童生徒参加合奏●箏 十七弦 尺八 琵琶

日本古謡。江戸時代から伝わる曲に明治時代に歌詞が付けられました。
今もさまざまな音楽に取り入れられて、世界的に知られるようになりました。

7. ワールド・トリップ! 合奏●箏 三味線 十七弦 尺八 琵琶

「森へ行きましょう」「フニクリ・フニクラ」など、和楽器で世界の民謡を演奏します。

演奏のあいだに、楽器のいかせつ、体験コーナーがあります。

●和楽器のおはなし●

奈良時代のころ中国から伝わって、その後日本で独自に発達した古くから伝わる楽器を和楽器といいます。私たちは、普段は西洋音楽になれ親しんでいます、日本の伝統的な行事、お正月、お祭り、結婚式などでは、和楽器の音楽を聴くことができます。日本の自然と人々の生活から生まれた日本の楽器がどんな音をだすのか、どんな音楽を届けてくれるのか、見て、聴いて、触って、楽しみましょう。きっと、古いものから新しい発見があるでしょう。

●楽器いかせつ●



●箏● (こと、または、そう)
箏は、弦をはじいてならず弦楽器です。弦は13本で、それぞれに「柱(じ)」を立てて指にはめた「爪(つめ)」で弾きます。現代の合奏では、17本の弦のやや大きめで低音が出る「十七弦」も演奏されます。琴(きん、こと)は、箏とは違い、七本の弦で「柱」もありません。



●三味線● (しゃみせん)
三味線は、バチで3本の弦をはじいて弾く弦楽器です。胴体には猫や犬の皮がはってあり、音がよくひびくように作られています。やはり中国から沖縄をへて、織田信長のころに日本に伝わりました。持ち運びに便利なので、江戸時代には、たくさんの方が演奏して楽しみました。



●琵琶● (びわ)
楕円形の胴体に上の方が曲がった棹がつき、4本の弦をバチで弾く弦楽器です。ペルシャ(今のイラン)で生まれ、奈良時代に日本に伝わりました。奈良の正倉院には、インドの琵琶が保存されています。日本では「平家物語」を琵琶の伴奏で語る(うたう)「平曲」が有名です。



●尺八● (しゃくはち)
表に4つ、裏に1つの穴がある竹でできた管楽器です。昔の長さの単位で、竹の長さが1尺八寸(約55センチ)のところから「尺八」と名づけられました。リコーダーのように簡単に吹いて音をだすことはできません。正しい指導でコツをつかめば、和楽器の魅力に触れることができます。